

絵 本は画家との共同作業

大人気絵本の「ともだちや」シリーズで組んだ画家・降矢ななさんは、出版社からの紹介でした。画家のタイプによって、お話のコンセプトを丁寧に説明した方がいい場合とそうでない場合がある、と内田さん。

「降矢さんの絵はうまいけど変だった。『ともだちや』は変な話だから、この人にお話ししようと思った。『キツネは服を着ていますか』と変な質問してきた時も、自由に暴れてほしくて『イメージはあるけれど教えません』と答えた。したらあんな下品な面白い絵を描いてきて！」とても嬉しそうに内田さんは言います。内田さん語録では『変』『下品』『面白い』は誉め言葉のようです。



▲2011年、降矢ななさんとサイン会



◀キツネが「1時間100円」でともだちになる商売を始めます。オオカミにトランプの相手になれと迫られ…。シリーズが13巻も出ています。

作品にまつわる面白エピソードもいろいろあります。

『うそつきのつき』は私は途中経過を全く知らされていなくて、ボツになったんだと思ってました。ある日ダンボールが届いて、開けたら『うそつきのつき』が入ってるんですよ。編集者とデザイナーと画家の荒井良二さんが話し合っていて、内田さんに見せないでやろうって。これは普通作家がカンカンに怒るやつだよ。だけど3人は『麟太郎さんは結果が面白ければ大丈夫』って。この時も内田さんは大喜びだったそうです。

「文字って、絵の中に入れて黒い点々になる。我々物書きには文章にプライドがあつて、文章を削ったり他人の意見を入れたりすることが難しい。でもそれができないと、絵本は作れないからね。画家との共同作業だから」長年の友人である画家の西村繁男さんと、絵本『がたごとがたごと』を作ったときも、

「編集者から『乗り換え場面を入れたら』と提案があった。でも、余計な言葉を入れるとリズムが崩れる。だから絵で表現してもらった。西村さんの変態的な絵だからできたんだよ」  
とうとう『変態』ときましました。最高の褒め言葉です。



▲仲良しの西村繁男さん（左）と作品を手に。

本 を読むことは感性を育てる

本が好きで、大金持ちか本か選べと言われてたら迷わず本を選ぶという内田さん。羽村に越してきたときも、真っ先に向かったのは図書館でした。

「図書館というのは、大人だけでなく、地域の子ともたちにとってもすごく価値があるところ。本が好きで、たくさん本を読んだ人は感性が違う」と言います。

「例えば『ぐるんぱのようちえん』『わたしのワンピース』のような作品を読んだ子は、日常の中の小さな弱いものに豊かさがあふれる感じ取る。そういう子は例えば戦争なんか、望まないよね。こういう子どもたちが持つ感性、開かれた精神が平和を作るんだと思う」

戦後80年に合わせ『ひとのなみだ』という絵本を出版しました。日本絵本賞を受賞した、近未来の戦争の話です。本当は戦争の本は書きたくなかった、と内田さんは言います。



◀ロボットの兵隊が戦争に行く世界。ぼくらは安心して暮らしているはずだった…。非戦と平和への願いが込められた絵本。



電車はがたごとがたごと、市街地を抜け、田園地帯を抜け、山奥へとすすみます…。リズム感のある短い文と、細かく描き込まれた絵のバランスが絶妙で楽しい。▶

「反戦の本を書いて『いい人』になってしまうのは物書きとしては危ないと感じるからね。でも、今ある『戦争』も誰かが書かなければならない。拳を突き上げるような反戦ではなく、戦争を知らない世代ならではの反戦をね」本を読むということはどういうことか、内田さんに尋ねてみました。



▲「ひとのなみだ」で日本絵本賞を受賞。(左から) 編集者の西尾さん、内田さん、画家のnakabanさん(右)

「本を読むってことは、自分に欠けたところがあるという自覚を持つているってことだと思う。充足している人は本なんか必要ないでしょう。反省して、絶えず成長することを望む。本を読む人には、自分が少しでも高くなりたい思いがあるんじゃないかな」でも、子どもに無理に本を勧めるのは良くない、と内田さん。

これから挑戦したいこと

内田さんは、詩人や童話作家としても活躍しています。浮かんだ詩を毎日SNSに投稿したり、さらに、童謡にも挑戦しています。

「ユーモアがあつてちよつとストーリー性がある詞を作つて、それに曲をつけてもらいたいんだよね。メロディも良くないと歌は流行らないから、良い曲をつけてもらいたくて、日本童謡協会に入りました。作曲家の連絡先を教えてください(笑)。毎日詞を作っています。いつかみんなに歌ってもらえるような、いい童謡を作りたいですね」

85歳内田麟太郎さん、言葉の魔術師の夢はまだまだ広がります。



▲内田さんの最新詩集。村上康成さんの絵と内田さんのナンセンスな言葉の相乗効果でユーモア炸裂の1冊。(銀の鈴社)



内田さんの新作絵本。内田さんの初恋の思い出をもとにしているとか。少年の淡い恋が、楓真知子さんの爽やかな絵で生き生きと描かれています(文芸社)▶

図書館にはこんなコーナーも!

羽村ゆかりの児童文学作家コーナー



内田麟太郎さん以外にも、こんな作家さんの作品を集めています

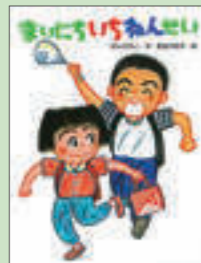


▲あかりちゃんのつがくろ  
うるしばらともよし文/よしだるみ絵/垣内出版  
小さな動物公園を通して、動物たちにあいさつしながら学校に通えたら楽しいな!羽村市動物公園が舞台の、実話に基づいた温かな絵本。



◀じゅげむの夏  
最上一平 作/マメイケダ 絵/佼成出版  
筋ジストロフィーのかっちゃんとうちの4年生男子たちの夏休み。川にダイブしたい、というかっちゃんの願いをかなえるため、僕らは綿密に計画を練ったけれど…。

まいにちいちねんせい▶  
ばんひろこ作/長谷川知子 絵/ポプラ社  
ドキドキがいっぱいの1年生の毎日!3つのお話が楽しめます。



◀はじめてのハロウィン  
SANA さなの森 作/文芸社  
初めてハロウィンに出かける3匹のねずみ。目の前には次々と現れる目玉…!?羽村市出身のイラストレーター SANAさんの初めての絵本。